

# 馬産地ライター村本浩平の 2023 スタリオンシリーズ競走種牡馬名鑑



Vol. 2 | 6.27 [火] ▶ 7.27 [木] 開催分

6.27  
[火]

モズアスコット賞  
【栄冠賞 [H2]】

モズアスコットは2014年産まれの栗毛馬で、2021年シーズンから新ひだか町・アロースタッドで繋養されています。デビューは3歳の6月と遅くなったものの、初勝利からの4連勝でオープン入りを果たします。4歳時には連闘で臨んだ安田記念を優勝。連闘馬の安田記念勝利は29年ぶり、しかも、勝ち時計はレースレコードタイともなりました。6歳時にはダートへと戦いの場を移すと、いきなり根岸Sを優勝。続くフェブラリーSも制して、史上5頭目となる芝、ダート双方でのGI制覇を成し遂げています。父譲りのスピードとパワーを兼ね備えた産駒には、芝、ダートの双方で条件を問わない活躍が期待できそうです。

7.4  
[火]

タワーオブロンドン賞  
【グランシャリオ門別スプリント [H3]】

タワーオブロンドンは2015年産まれの鹿毛馬で、2021年シーズンから日高町・ダーレー・ジャパン スタリオンコンプレックスで繋養されています。現役時は2歳時に京王杯2歳Sを優勝。3歳時にはアーリントンC、4歳時には京王杯スプリングCとセントウルSを勝利した後に、スプリンターズSでGI制覇を達成しています。仕上がりの良さと成長力も示しただけでなく、2度のレコードを樹立と、スピード能力の高さも証明しました。世界的な名牝系からは、日本での活躍馬も数多く輩出。サンデーサイレンスやキングカメハメハの血を引く繁殖牝馬に配合しやすい血統背景も相成って、多くの繁殖牝馬を集めています。

7.6  
[木]

ダノスマッシュ賞  
【ノースクイーンカップ [H2]】

ダノスマッシュは2015年産まれの鹿毛馬で、2022年シーズンから新ひだか町・アロースタッドで繋養されています。父ロードカナロアは日本最強スプリンターとして名を馳せただけでなく、日本馬としては初めて香港スプリントを優勝。その父とレース史上初となる親子制覇を果たしたのがダノスマッシュです。3歳時には現役時の父も勝利した京阪杯で重賞初制覇。古馬となってからも芝のスプリント重賞を沸かせています。香港スプリントの次の年には高松宮記念も制して、ここでも親子制覇を成し遂げました。繋養初年度から満口となる人気ぶりで、産駒たちには親子三代での香港スプリント制覇の期待もかかります。

7.13  
[木]

ホットロッドチャーリー賞  
【リリーカップ [H3]】 ● 新種牡馬

ホットロッドチャーリーは2018年産まれの黒鹿毛馬で、2023年シーズンから安平町・社台スタリオンステーションで繋養されています。2歳時はBCジュヴェナイルで2着に入着。3歳時にはケンタッキーダービーで2着となるなど、米クラシック戦線で好走を続けていくと、ペンシルベニアダービーでGI初制覇を果たします。GI勝利はこの1勝ながら、4歳時のドバイワールドカップも含めてGIでは2着4回、3着1回と安定した活躍を続けました。半兄は米牡馬チャンピオンスプリンターのMitoleであり、日本競馬への適性が高いDeputy Minister系種牡馬であることも、堅実な産駒の活躍に繋がっていきそうです。

7.27  
[木]

アドマイヤマーズ賞  
【サッポロクラシックカップ [H3]】

アドマイヤマーズは2016年産まれの栗毛馬で、2021年シーズンから安平町・社台スタリオンステーションで繋養されています。2歳のデビュー戦から連勝を重ねていき、3連勝でデイリー杯2歳Sを優勝。続く朝日杯FSも制して、その年のJRA賞最優秀2歳牡馬に選出されます。3歳時はNHKマイルCでGI2勝目をあげると、年末には香港マイルへと出走。国内外から強豪が集まる中、3歳馬としては史上初となる香港マイル制覇を果たしました。ダイワメジャーの後継種牡馬としての期待も高いだけでなく、香港での活躍も評価される形で繋養初年度からシャトル種牡馬となり、オーストラリアでも供用されています。

今シーズンは特別競走9レースも  
「スタリオンシリーズ競走」として開催!

- 門別7回・ヒガシウィルウィン賞 ● 新種牡馬
- 門別8回・アニマルキングダム賞

「スタリオンシリーズ競走」は、一般社団法人JBC協会(ジャパングリーダーズカップ協会)が産地の支援を得て、優勝馬の馬主や生産牧場に種牡馬の翌年種付権利を副賞として贈呈する競走です。

※生産牧場が海外の場合は付与対象外となります。

